

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4372900698
法人名	社会福祉法人 東泉会
事業所名	グループホーム 氷川
訪問調査日	平成 21 年 3 月 10 日
評価確定日	平成 21 年 4 月 22 日
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップ「いふ」

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 調査報告概要表

作成日 平成21年 3月19日

【評価実施概要】

事業所番号	4372900698		
法人名	グループホーム氷川		
事業所名	社会福祉法人 東泉会		
所在地 (電話番号)	熊本県八代市東陽町南752-1 熊本県八代市東陽町南762-1	(電話)0965-65-3100 (電話)0965-65-3101	
評価機関名	特定非営利活動法人ワークショップいふ		
所在地	熊本市水前寺6丁目41番5号 千代田レジデンス106		
訪問調査日	平成21年3月10日		

【情報提供票より】(平成21年 3月11日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年4月1日(もみじ棟)	平成17年6月(りんご棟)
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計 18 人
職員数	16 人	常勤 14人, 非常勤 2 人, 常勤換算7.75人

(2)建物概要

建物形態	併設	新築
建物構造	木造	
	1 階建て	1 階

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000円(もみじ棟)18,000円(りんご棟)	その他の経費(月額)	共益費4,000円 水光熱費10,000円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	200 円	昼食 300 円
	夕食	300 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(3月11日現在)

利用者人数	18 名	男性 3 名	女性 15 名
要介護1	1 名	要介護2	4 名
要介護3	7 名	要介護4	6 名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84.2 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	安田医院、鏡歯科
---------	----------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

<p>気軽にちょっとそこまで買い物に、といった立地条件ではないが、母体法人の介護老人福祉施設と地域交流棟等が広大な施設に在る。周囲は桜の木に囲まれ、目の前には立神峡公園や氷川が流れ、豊かな自然に恵まれている。3つの理念に沿ったグループホーム独自の落ちついた暮らしが営まれており、行事・イベント・災害時対策等は法人合同で行うことで大きなメリットを出している。ユニットの管理者の連携も上手くとれており、利用者18名に対して家族のように愛情深い係わりが感じられた。利用者の個性に合わせたケアを心がけ、その日の表情から思いを感じ取り、利用者が安心して落ち着いて過ごせるよう気配りが行き届いている。</p>
--

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>グループホームが「地域密着型サービス」として位置付けられ、市・行政との連携が重要であることを踏まえ、年3回発行の広報誌を支所に置いてもらっている。ふるさと訪問や墓参りは家族の理解と協力を求めつつ、どこかへ外出したついでに立ち寄ることも検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価に記入することで職員一人ひとりのケアの見直しや方向性への自覚等が認識できるよう、事務所で全員で書き込みをした。それを1つにまとめることで共通認識ができ、職員の働く意欲に繋げている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1度開催されており、自己評価・外部評価を検討した結果、ここで提案された地域の子供会とのふれあい会の開催は、地域の親子・利用者双方に活力をもたらした。また、学童保育受け入れも議題に出され、前向きに検討中である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族の意見や苦情・不安等を把握する場としては面会時が1番多いが、「お世話になっています」という気持ちからか、直接的な苦情や意見は出されていない。面会の少ない家族に対しては電話で連絡をとったり、法人の広報誌を送って様子は知らせている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の子供会とのふれあい会効果が一番大きく、子供達が学校帰りに寄ってくれたり、又法人の行事やイベントに参加した地域の人達の中に馴染みの子供の顔を捜して交流する等、利用者の元気のもととなっている。老人会・婦人会のボランティア活動の際、利用者とのふれあいをケーブルテレビで放映され、今まで「行っていいのだろうか」と遠慮されていた近所の方々との交流もできるようになった。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初からの理念である①個性の尊重とやさしさと②ゆったりと楽しく③残された力で暮らしの喜びと自信をという3つのわかりやすい文言で理念が作りあげられている。また、新人教育時から日々のケアに理念の浸透のための努力が実践されている。	○	「地域密着型サービス」としての存在を理念に加えることで地域の社会資源としての存在を再確認することも良いと思われる。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	新人には理念についての理解を求め、他職員にはなれ合いにならないよう意識付けている。ケアプラン等において事務中心にならないよう常に「待つケア」を心がけ、利用者中心の支援ができています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	婦人会・老人会から草取りや年末の大掃除等、ボランティア参加がある。地域の子供会との交流ではトランプ遊びや裏庭のりんご畑でりんご狩り、クリスマス会等を実施。核家族で高齢者に接する機会が少ない親子参加もあり、楽しみにされている。利用者にとっては子供達とのふれあいが笑顔と元気をもたらし、相互の喜びとなっている。この様子はケーブルテレビで放映されており、近隣の方々のホームへの理解にも繋がっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価表は職員がいつでも記入できるように事務所に設置。看護職・介護職の経験に応じて項目を分担し、全職員で1つにまとめることで共通認識が形成されている。自己評価・外部評価共に運営推進会議の中でも報告され、委員からの提案もあり、できるところから取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進は、家族代表・施設(法人)・家族会代表・民生委員・ホームの職員で構成され、2ヶ月に1度定期的開催。ここで提案された地域の子供達とのふれあいは利用者に活力をもたらし、継続して取り組んでいる行事の1つとなっている。又、学童保育を受け入れてはどうかという提案もあり検討中。更なる運営推進の活発化と充実のため、元役場職員・ホーム職員が加入する地元消防団や地域包括支援センター等への協力依頼も考えている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターとは時々情報交換をしているが行政との関係は積極的であるとは言えない現状である。八代市役所東陽支所にはホームの暮らしぶりが掲載された法人の広報誌を置いている。	○	「地域密着型サービス」施設として、更に市町村との連携は必要であると考えられる。待ちの姿勢ではなく、「グループホーム八代部会」と力を合わせて問題提起や行政と合同で講演会等の開催を企画する等かかわりを求める働きかけが望まれる。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	必要に応じて面会時に報告している。年3回発行している法人の広報誌「ひかわの里」に掲載されている写真等にホームの暮らしぶりがよく表れており、家族から好評。面会の少ない利用者には自宅訪問を行ない、報告したい意向はあるが実現には至っていない。職員の異動が行われた際も適時な報告の実施が望まれる。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時の会話や対応の中でさりげなく質問したり、運営推進委員である家族に他家族の思いや意見を聞いたりしているが、目立った不満や苦情は出ていない。	○	年に1回、法人としての総会があり、様々な体験談が出されているが、グループホーム家族としての意見は出にくいようなので、ホーム独自の家族会立ち上げに向け、のみの茶話会・食事会等を開催し、徐々に家族同士の信頼関係が築けるような働きかけを行うのも一案と思われる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設施設であり、定期異動が実施されており、日頃から行動やイベントを通じて利用者とのかかわりがもてるよう取り組んでいる。異動後は、ホームの理念でもある「ゆったりと楽しく」を感じ取ってもらうため、利用者に寄り添う、会話を楽しむ等、職員が利用者にならぬような配慮がみられた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の言動に対して聞く耳を持ち、自身体験も交えてその都度、関わり方を指導。施設内外の研修も積極的に支援しており、職員の資格取得についても法人からの支援が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎月1回の「グループホーム八代部会」に参加し、事例検討や学びたいことのキーワードを各々が書いて感想を述べる等を行ない、意見交換会でサービスの質の向上につなげている。また、グループワークで知り合った他グループホームの職員の訪問もあり、交流を継続している。	○	「グループホーム氷川」が率先して相互訪問が実現するよう、働きかけがなされるよう期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	併設施設からの入所が多いので顔なじみになっているのは心強い一面ではあるが、暮らし方が全く違うので家族がまず見学を行い、本人も体験入所を通して昼食やおやつと一緒に食べる等して、不安や戸惑いを軽減するよう配慮している。更に話し合いを重ねての入所となる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	理念の1つである「ゆったりと楽しく」を踏まえ、生活歴を把握した上で本人の出来ることを見極めて、台所仕事、畑仕事、干し柿作り、趣味の歌やパズル等、共に楽しんでいる。掃除、洗濯物取り込み、たたみ等、職員を手助けする事も多く、共同生活が展開されている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前、家族・本人・母体施設利用時のケアマネジャー等からの聴き取りを充分に行っており、面接時の会話や日常生活の中からケース記録にこまめに記入する事で、思いや意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の意向や生活歴を聴取した内容はICF方式を活用し、介護計画に反映する仕組みになっているが、職員主体の介護計画になりがちであるとの認識がある。今後、外出を兼ねて自宅訪問し、相談しながらの計画作成していきたいという前向きな姿勢が伺えた。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月毎の定期的なモニタリングの他、急変時や状態変化に即した介護計画の見直しが行われているが、家族を交えての計画見直し作成までには至っていない。	○	介護計画作成者は、本人・家族の希望に添えるよう家族の理解と、協力を得られる計画作成になると更に良いと思われる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	長年の夢であった日帰り旅行が実現。新鮮な魚を食べたいという利用者の思いをとらえて天草へ出かけた。たまたま面会に来られた家族も同行され、喜ばれている。又、法人施設の行事やイベントにも参加し利用者の楽しみに繋げている。特に毎週木曜日に開催される「居酒屋」への参加は好評となっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前に、本人・家族の意向を確認した上での受診支援が行われている。通院については基本的に家族の付き添いとなっているが、日常の様子は職員がわかっている場合が多いので、家族はその都度報告して柔軟な対応が行われている。かかりつけ医への状態報告を行い薬は薬局から届けてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	これまでに1度だけターミナルを体験した。訴えに対してどう応えるか、特に夜間対応に不安があったが、本人や家族の強い希望には応えたい意向であるが、途中で本人・家族の思いや希望が変わる場合も想定して定期的に話し合い、書面に残している。	○	ターミナル対応は職員への大きな責任と負担を強いる事になるので、バックアップ体制や更なる職員研修に取り組まれる事を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼び名や日常の言葉遣いに注意し、特にトイレ誘導には配慮しているが時として他利用者からの指摘もあり、さりげなく笑顔で本人にさとられないような誘導に努力されている。記録は事務室で利用者の様子を見ながら記入し、記載内容等が他の人の目に触れないような心配りがあった。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念の1つ「ゆったりと楽しく」を念頭に「待つケア」が心がけられている。日々の暮らしの中で、声かけながら一緒に家事を行う事でもう出来ないと思っていた事が出来るようになり利用者・職員双方の喜びとなっていた。昼食後、さりげなく散歩に誘い、連れ立って出掛ける姿も見られた。これ等の日常は「生活日誌」の中に細かく記入され、一人ひとりの状態把握に役立っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取りは好きな人が多く、誰かやっていると他の利用者も一緒になって楽しみながらの作業になっている。昼食時、その日のメニューの食材について職員が話題のきっかけを作り、会話が弾んでいた。食後、各々のランチョンマットをたたむ人、茶わんを重ね片付ける人、箸置きを一つの容器にまとめて入れる人等、各々がテーブルを囲んで和やかな食事風景になっていた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ほぼ2日に1度を入浴の目安としているが、季節や健康状態に合わせて柔軟に対応。夏はシャワー浴、冬は面倒だという理由で拒否の人もいるが、「体重測定しましょう。服を脱いで下さい。丁度お湯が沸いていますよ」等、無理のない誘導で入浴に繋げる工夫が行われている。柚子湯・菖蒲湯や入浴剤の利用も入浴を楽しむ要素としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	りんご棟では自室で毎日新聞を読む人、リビングでクロスワードに取り組む人、数人まとまってテレビを観ている人等、各々の楽しみの時間がみられた。もみじ棟では山のような洗濯物たたみをみんなの手分けする様子が楽しそうで、掃除好きな利用者は職員の手助けをし、存在感のある暮らしとなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑内散歩や日向ぼっこ、夕涼み等は日常的に行われている。希望を聞いて買い物に出掛けることもある。	○	ふるさと訪問や墓参りは家族の理解を求めたり、誕生日にその人のスペシャルデーとして職員と一緒に出掛けるとか、レストランで食事をするというような外出のあり方も工夫されると良いと思われる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることの弊害は全ての職員が理解しており、自由外出対策として玄関の靴の確認、ドアの開閉音への注意を怠らないよう意識している。万一、気づき漏れがあった場合、母体法人と連携を取り、さり気ない見守りの中で利用者本位のケアに徹している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人との合同訓練を年2回、独自の避難訓練は毎年6月行っている。緊急連絡網を整備し、避難方針もたてている。一番難しいのは利用者の誘導。そのために職員の意思統一が重要と考え、真剣に取り組んでおり、いざという時、法人全体での非番職員の出勤体制もできている。併設施設の協力体制は大きな支えとなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>併設の管理栄養士が作成した献立を基に、利用者の好みに応じた食事が提供されている。カロリーの摂取過多になっている場合は、茶碗の下の方はお粥、上にご飯という工夫もみられた。水分は、3度の食事時、おやつタイム、夜間補給で必要量を摂り、個人の状態に応じてコーヒー・紅茶・ココア・アップルティー・牛乳等が好みに応じて提供されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>両棟共に座った位置からすぐ近くに山が見え四季折々の季節の移ろいを感じ、その下には「ひかわ」が流れ落ち着いた環境が室内を優しい雰囲気になっている。もみじ棟はワンフロアに仏壇を置いた和室に続きテーブル、そして大きな鏡が設置された洗面台がある。台所からは調理の音やにおいが家庭的安らぎをもたらしている。りんご棟は玄関には坪庭があり、その傍に置かれた椅子に座って情緒豊かに過ごす様子がみられた。居間はテラスに面して日当たりも良く、居心地のいい寛ぎの場となっていた。</p>		
30	83	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>もみじ棟では入口にのれん、ドアに出身地が書かれたネームプレートで自分の部屋であることの認識が持てるよう工夫がみられた。ベッドの上にきちんと寝具をたたんで重ねてある部屋、備え付けのタンスの上に絵や写真を貼ってある部屋等、利用者の個性が伺える居室作りがなされている。りんご棟ではたたみ部屋を2室作り、利用者の希望に応じる体制となっており、テーブルがない部屋にホームからリサイクルテーブルを提供し、家族面会の際、喜ばれている。息子さんが作成したというご主人の大型写真を入口近くに掲げている利用者もあり、各々自分の部屋での寛ぎが感じられる居室の作りとなっていた。</p>		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム 氷川
(ユニット名)	もみじ
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市東陽町南762-7
記入者名 (管理者)	池田 涼子
記入日	平成 21 年 2 月 12 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当時の理念で、利用者、職員共に分かりやすい理念である。		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝のミーティング時で斉唱し、日々の生活の中で理念を常に念頭に置く様に心がけている。ケアプラン等において判断基準としている		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族にはもちろんのこと、入居時に説明、又見学会等で見えるところに掲示し説明している。地域の方々には、併設の「ひかわの里広報誌」にGHのコーナーを設けて掲載している。また、子供会とのふれあい会を通じて、子供さんや両親の世代にも理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	併設施設内の為隣近所の方は、特養入居者になるが、苑庭散歩時立ち寄って会話・お茶を飲まれたりされてます。合同行事時、立ち寄っていただいています。	○	地域の老人会、いきサロン等の参加を検討中
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	施設全体的に地域と連携がとれているため、地域活動など参加声かけしてもらって交流できている。又、近所の子供たちと交流会をしている。年に1、2回地域の老人会の訪問あります	○	地域の行事、子供達とのふれあい会を実施しているが、これからは、近隣へこちらから、出かけて行くことも考えていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の居宅で受託した、家庭介護者教室に、参加協力したり、近隣の小中学校のワークキャンプ職場体験の受け入れを法人で行っている。		
(部分は外部評価との共通評価項目です)				
	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の、評価結果をふまえて、運営推進会議等で意見を頂きながら出来るところから取り組んでいます。	○	出来ることからの、見直しをおこなって、職員全体で改善にむけて取り組んでいる
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催時には、地域との連携や行事への意見を頂き、子供さんとのふれあい会を、実施しています。又委員、行政の方への行事の参加も実施しています。	○	推進委員の拡大を考え、いろんな職種の方からの意見を頂き、地域の方との関わりを多く出来るようにしていきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者の方とは、時に情報交換しているが、行政の方には、行事時、会議の開催し参加して意見をいただいています。	○	併設との合同の広報誌を市役所支所に置かせていただいています。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度は、研修には参加したが、全職員の教育は出来ていない。	○	今後、徐々に学んで行きたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎朝のミーティング時や、併設で合同設置している虐待防止委員会で話し合い、必要に応じて、勉強会で取り上げています。。	○	職員間で日々のケアが虐待行為に抵触ないように話し合っていく

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に時間をかけて十分に説明し同意していただいています。不安、疑問点については面会時に、さりげなく聞き出す努力し、理解・納得を図っている。	○	長期入居者には、家族、利用者に頃を見て説明している。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日々の会話の中で、入居者の言動から、思いを掌握する努力をしている。	○	馴染みの入居者同士の和の中に入り、思いや意見を掌握することに努める
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年1回のGH通信にて入居者の暮らしぶりを報告又、必要に応じて面会時に報告したり、預かり帳の確認印を頂いてます。面会時家族写真等も撮って渡しています。職員の異動等については定期的には報告できてない。	○	面会の少ない方には電話での報告しか出来ず、徐々に自宅訪問し報告を実施しているが、全員でない。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	室内に第三者相談案内ポスターを貼付している。また運営推進委員の中に家族の方をお願いし、その中でも他家族の方の声を聞かせていただいています。	○	家族会の話し合いの場を作って行く必要がある
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や併設施設の全体会議等で、提案や意見を聞き、必要に応じて反映させている。	○	月1回スタッフ会議等で、全員に意見交換会を実施している。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者状況や行事に対応した職員を確保しており、又、職員の急病等への対応できる勤務体制をとっている		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設の為、定期異動時、出来るだけ入居者の影響をおさえるため、日頃より、入居者と職員のかかわりを行事等でするように努めている。又、離職をなるべく少なくするため、各種社会保険を完備し、勤務時間についても配慮している。	○	併設の為、行事等に日頃から参加し関わりを多く出来るようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内勉強会、カンファレンスを行い、施設外部研修も皆が参加し全職員が共有する為、全体会での研修報告(発表)にて学んでいる	○ 職員によってはレベルが違うため、まだまだ勉強が必要でありGHスタッフ会議に勉強会を取り入れている
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH八代部会との定期勉強会に参加して、他GH職員との交流を深めているが、相互訪問は、できていない。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	毎日のミーティングやスタッフ会議で意見を出しやすい雰囲気作りに努め、意見の出し合いをしている。職員の休憩出来る場所を短時間ではあるが確保できている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	勤務状況や研修会参加状況を把握するようにしている。また、内容に応じての研修会参加や各資格取得に向け、学習を勧奨を行っている。	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入所前に、ケアマネ・家族より情報収集し、本人との関わりを多く持ち本人の思い、心身の状態について把握し、よい関係作りに努めている	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族の思いを理解し、ご家族との会話を多く持つ機会を作り、信頼関係を築いていけるように努めている	○ 今後、家族の意見を聞く機会を作りたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設スタッフと連携を取り、本人やご家族の、今、最も困っておられる事と、その緊急性について把握すると共に、他のサービス機関の情報も提供しながら適切な対応に努めている		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に、見学され、本人さんとご家族と十分に話し合い、自宅と持続した生活が送れるように努めています。また、併設からの、利用がおおく、顔なじみになっておられる。	○	出来れば事前に、自宅に訪問して、本人さんの社会資源を把握するようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日の、会話の中で、いろんな事を学び教えられることが多く、「理念」のごとく過ごしているようですが、まだまだ十分ではないようです。	○	入居者一人ひとりへの思いを聞きながら、喜怒哀楽を共にしていきたい。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族にも、関わっていただき、共に本人さんを支えていただく様に、関係作りが必要である。	○	今後、バスハイク等に家族の方の参加も出来ればと考えている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	時には、家族になり、怒られたり、慰めたりして接して、ご家族とのよりよい関係につなげるように努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設の為、馴染みの方との会話を出来るように場所作りを心がけているが、全員ではない。	○	馴染みの場所、ご近所訪問を検討していきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	いつも皆さんでなかよく、楽しく暮らしましょうと声かけしながら、相性が悪い方との双方と関わり合い支え会える様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	サービス利用が終了した場合であっても、その後の生活場所への提供の相談をしたり、将来への不安を伺い、安心して生活できるよう支援できることをご家族に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に担当ケアマネージャーから情報収集し、面家時に、家族の方からも聞くようにしている。また、日々の会話の中で思いや意向を把握するように、出来るだけ本人の気持ちに添うように努めています。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々、入居者と過ごす中で、話を伺ったり、家族の面会時に話をしたりして把握する様に努めている。	○	面会時に、本人、家族の方と日々の出来事について、話をしたり写真を見ていただいています。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日を通して、本人に取っての生活のリズム、暮らしぶりについて把握し、いくつかの記録にて把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、ご家族の意向を取り入れて、カンファレンスを開き、サービス内容の変更を協議しているが家族等の話し合いは出来ていない	○	時間が許せば、家族と共に、相談しながら作成していきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	状態変化時は、カンファレンスにて検討、必要に応じて、本人、家族、必要関係者と話し合いしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日課やそれに近いものを、チェック形式にして変化や気づきを記録し、職員の申し送りノート、勤務前に目を通して業務にはいるようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設施設が、ほとんどの多機能サービスを提供しており、ホームとしても、協力体制を取っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の子供会の協力を得て、年2回ふれあい会を行っている。町の文化祭にはひかわの里として、出展させてもらっている。また、小学校は、イベントの都度「ご案内」を頂いたり「ご案内」をしたりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所の担当者、他のサービス事業者と必要に応じて連携しているが、現在そのような支援をした例はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に本人や家族の意向を尊重している。	○	本人の、希望される医療機関への受診をしていただいています。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩である事を忘れずに、一人ひとりに応じた対応を心がけている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の意思表示、希望を取り入れ、自己決定してもらえるような声かけ対応しているが十分ではない。意図的に思いを引き出す事が出来るように支援していきたい。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	「理念」を念頭に置き、待つケアをもっとうに、手を出しすぎに注意し一人ひとりのペースに合わせ、寄り添いながらさりげなく支援するように努めている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	なるべく本人に選んでいただき、おしゃれをされるように支援している。理容については、男性は、職員を希望されるので、カットしているが、女性の方は訪問の美容室の方が、本人の希望を聞き、会話を楽しみながらされていますが望む店とはなっていない。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常生活する中で、出来ること、出来ないことを把握し、さりげなく声かけし、食材を見て、触れて、昔の料理の話題を話しながら、職員と一緒にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好は、事前に家族より情報を得たり、生活する中で、入居者と会話しながら把握し、体調を見ながら希望に添うようにしている。酒、煙草については、場所、時間帯を取り決め、スタッフの目の届く範囲でしていただくようにしているが、今のところおられない。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人ひとりの、排泄パターンを把握し排泄チェック表を確認しながらさりげなく声かけしている。また、本人の行動、言動をサインとして速やかに失敗なく、周りの目にも気を配りながら排泄できるように支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴確認表を確認して、本人の希望を聞き実施している。また、入浴を嫌がられる方には、スタッフで相談しながら実施しているが本人の満足されているのか考えさせられます。季節行事には、ユズ湯、菖蒲湯、晩白柚湯等で楽しめるように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	過去の生活歴をふまえて、一日のリズムを、昼食後時間を考慮しながら休憩し、夜間は早めに自室を暖めて入眠前に暖かい飲み物を提供し、おしゃべりしたり、時々状況に併せた対応をしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	掃除、食事作り、片づけをしたり、近所の子供達とふれあい会で一緒に食事をしたり遊んだり、また、併設合同で行事参加して楽しんでいます。また、畑の野菜の手入れ、収穫などされてます。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族と話し合い、管理できる方は、管理持続できるように支援している。	○	買い物会には、家族の了解を頂いて、自分で好きな物を選んで買って、支払ってもらってます。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所の散歩や買い物は状態や希望に添って出かけているが、ほとんどの方が、園庭散歩、日光浴、夕涼みでおわっている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	入居者の希望を聞き、年に数回、バスハイクを実施している。また、少人数の買い物会、バスハイク、日帰り旅行も実施、旅行時は家族の同行されています。	○	今後も、多くの家族との一緒の外出を実施していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	別に制限しておらず、入居者の希望により、スタッフが援助しながら手紙を出したり、電話したりしている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客者の希望また、入居者の状況に応じて、談話室、廊下ソファ、居室を案内し、お茶等を準備してゆっくりくつろいでいただけるようにしている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設と合同で身体拘束廃止委員会を設置し、主任会議で検討し全スタッフに回覧している。また、全スタッフ常に、危険防止とはいえ、安易に拘束を行わないように心がけて実践している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外はかぎはかけていない為、自由に外出されることがあり、声かけしさりげなく見守り、同行している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	スタッフ同士で声かけして常に所在確認し、すぐ対応出来るにしている。夜間でも時間毎の巡視以外に入居者の状況に合わせて巡視している。	○	転倒の危険性のある方には、センサーマットを使用しています。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	危険物は保管場所を定位置に決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	併設での勉強会また、ヒヤリハット等を活用し全職員で回覧、サインしてもらい、意見を聞き、スタッフ会議、事故によっては緊急会議にて検討会している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルを、いつでも見える所に貼り、全職員が確認できるようにしている。また、併設施設と合同で救命救急講習を年1回、勉強会2ヶ月1回の中で看護師を講師に勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の避難訓練を行っている。緊急連絡網を整備して、災害時、非番の職員も出て避難訓練に当たる様に取り決めている。また、風、水害が予測時、当番制にて、夜間泊まり込みすることになっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	一人一人に起こり得るリスクと、その人らしい暮らしとのギャップとの関係についてご家族と連絡相談しながら対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝の、バイタルチェックを行い、また食事摂取や言動など普段と違う様子がないか観察し、記録に残している。様子が違うとき、職員同士で情報を共有し、観察を行い、必要に応じて医療機関に連絡し対応している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効用表をファイルし、全職員が確認把握できるようにしている。服薬管理箱に、日付別に分けてあり、飲み忘れがないように努めている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄チェック表にて状況確認し、散歩、水分摂取等を促している。又、食事に繊維質の多い物を多用し、一人ひとりに合わせて牛乳、ココア、黄粉牛乳を飲まれてます。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、口腔洗浄は週間になっているが、完全でない時は介助している。定期的な洗浄消毒も行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の、管理栄養士が作成した献立を基に、季節の食材や入居者の好みに応じてアレンジしている。量についても、チェック表にて把握し、定期的に体重測定をしている。	○	一人ひとりの、水分摂取量を確実に把握する必要があるため、職員の知識を高め学習していきたい。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	対応マニュアル作成し実行している。また、感染症が疑われる様な症状の方に対しての、処理セットを用意している。	○	開設当時から、消毒殺菌のため、自亜鉛素酸系の電解酸性水を使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	上記マニュアルにより、手洗い、うがいを徹底し、食材は賞味、消費期限を確認している。調理用具は、一日の業務終了時に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前には、季節の花を植え、中には観葉植物、花瓶には季節の花を飾るようにしている。又、玄関先にベンチ、イスを用意している。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂と一体の居間にて、苑庭の風景を見ながら季節感を味わい、時には季節の花を摘んで飾ったり、すぐそばの台所では、野菜を切る音、美味しい匂いでの会話の中で心地よく過ごされている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下で自由に過ごせるようにソファを設置し、各居室に気の合う物同士で過ごせるように、イスを用意している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具などは最初から設置してあるため、本人や家族と相談しながら使い慣れた物を持ち込んでもらっている。	○	出来れば入所前後に自宅に出向き、一緒に選んで持ち込めればと考えています。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	季節を問わず起床時には、全居室の、昼夕には全廊下にて換気し、外気との温度差に注意しながら換気している。また、こまめに温度調整しながら、冷暖房の調整を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	要所には手すりが取り付けられてあり、また、廊下にソファが置いてあり散歩しながらの一息出来るようにしてある。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人一人に合った、さりげない声かけにて、混乱や失敗を防ぐ努力をしています。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭には芝生が一面にあり、天気の良い日には、日光浴、談話しながらお茶会をし、散歩しながら園庭の草取り、畑で野菜の収穫したりしている。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

恵まれた自然環境、整備された苑庭で、自由きままに、ゆったりと楽しく過ごして頂くように、待つケアを心がけています。年間の行事通じて入居者と共に楽しみ、喜びを多く感じて頂いている。又、地域の幼稚園、小中学校、各種団体との交流会も盛んで地域に密着した暮らしとなっている。職員は手を出しすぎないように、意志決定の場面を考え、入居者中心の生活を心がけている。介護技術、医療面においても、母体法人で定期的に勉強会が行われ、異常時の対応、相談もできる協力体制ができている。又、地域の医療機関との連携を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム氷川
(ユニット名)	りんご
所在地 (県・市町村名)	熊本県八代市東陽町南762-7
記入者名 (管理者)	澤田 豊美
記入日	平成 21 年 2 月 10 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	併設の入所者やデイサービス利用の方だけでなく、近隣の方々と日常的につきあいでできるよう取り組みを考えたい。老人会や生き生きサロンなどの参加を検討している。
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	併設の居宅介護支援事業所で受託した、家族介護者教室に協力したり、近隣の小・中学校のワークキャンプ、職場体験の受け入れを法人として行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	以前の評価結果をふまえて、運営推進会議での意見を頂きながら、できる所から取り組んでいる。	○	今年は葉書にスナップ写真と日頃の様子をコメントして情報をお知らせしてみた。また個人的に手紙のやり取りをされておられる方には支援している。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	子供会の皆さんとのふれあい会では早速実行に移している。回を重ねるごとに家族の方からいろんな意見が出てケアに生かすことが出来た。	○	推進委員の拡充を考え、いろいろな職種の方からの意見を頂いてよりいっそうの地域の方との関わりをふ深めていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者時々に応じて連絡を取っているが、積極的に行き来するには至っていない。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	一部の職員のみ理解できているが、説明するには今一度の学習が必要である。全職員の教育には至っていない。	○	今後機会を見つけて勉強会の中で取り上げていく必要がある。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のミーティングや、併設の施設と合同で設置している虐待防止委員会で話し合い、全職員に議事録を回覧している。	○	回覧のみならずサインをするようにしている。また 随時検討するようにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>		
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	○	どうしても面会が少ない方については電話での確認しかできず、できれば自宅訪問し報告したい。
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>		
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>		
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている		職員によってはレベルが違うため、まだまだ勉強が必要でありGHスタッフ会議に勉強会を取り入れるようにしていく
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○	相互への訪問の声かけをした。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	併設スタッフと連絡を取りご本人やご家族の今、もっとも困っておられる事を把握するとともに、他のサービス機関の情報の提供も含めて連携し対応している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申し込みから、入居までの間にイベントの時など機会を捉えて家族共々ご足労願い入居の方々と接して頂き、雰囲気を感じて頂いている。 併設施設利用の方が多く、すでに顔なじみになっておられる方も多い。		不安を少なくするために関わりをさりげなく取るようにしている。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	リビング前の菜園の手入れなどでは、一緒に作業されたり、されない方もデッキから、声をかけアドバイスしておられる。 その他の日常生活の中でも、いろいろ教えられる場面が多く見られる。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	年に数回の行事を家族に参加を呼びかけている。 また、利用者家族の方にも運営委推進会議の委員に就いて頂き家族の立場からの意見を伺っている。	○	今後出来れば、バスハイクや買い物会なども家族も含めて計画できればと思っている。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの家族とご本人の関係を把握し、出来ることを仲介するよう心がけている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設のため、合同行事などでなじみの方と交流が出来るよう「場」づくりを心がけているが、全員ではない。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	いつも皆さんでなかよく、楽しく暮らしましょうと声かけしながら、相性が悪い方との双方と関わり合い支え会える様に努めている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	居宅介護支援事業所の担当者へ引き継ぎ、その後の生活場所への提供の相談をし将来への不安を伺い、安心して生活できるよう支援できることをご家族に説明している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職歴や生活歴を踏まえ、スタッフ全員が利用者一人一人に目を向け、何気ない会話の中や、さりげなくハナシを持ち出して意向の把握につとめ、また家族や知人より情報収集に努めている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	差し支えない範囲で、出来るだけ主に家族から聞き出し、ご本人との話と併せて情報の把握に努めている。	○	お便りなどで本人様の思い出として書いて頂いている。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日を通して、ご本人にとっての生活リズム、暮らしぶりについて把握するようつとめている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人、家族の意向や想いを受け止め、ともに作る介護計画との認識を持っている。 カンファレンスや毎日のミーティングの結果をプランに生かしているが、モニタリングは不十分。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	日々の変化に伴い計画の変更の必要があると判断したときは、実情に合わせて見直している。しかし、その際の担当者会議はその場にいたスタッフだけで、家族は事後承諾の場合が多い。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録については、変化や気づきを中心に記録するようにして後々記録を振り返るときに分かり易いようにしている。スタッフは勤務に入る前に記録や申し送りノートに目を通すようにしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人の状態や希望、家族の意向に応じてホームとして出来ないことも併設施設と連携して出来るだけ、希望や意向に沿うようにしている。		バスハイクや日帰り旅行など連携して行っている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の子供会の協力を得て、年二回のふれあい会を行っている。 町の文化祭には、「ひかわの里」として、出展させてもらっている。 小学校は体育祭や音楽会などイベントの都度、「ご招待」して頂いたり、「ご案内」したりしている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	居宅支援事業所の担当者、他のサービス事業者と必要に応じて連絡をとるようにはしているが、現在の所そのような支援をした例はない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	必要に応じて連絡を取っている。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、入居に至るまでのいきさつをふまえて本人、家族の意向を確認し尊重している。	○	疾患に応じて専門の医療機関への受診をされている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	気軽に相談できる医療機関を確保しており、必要に応じて専門医や病院を紹介してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護師、かかりつけ医療機関の主治医、看護スタッフ等と連携をはかり日常の健康管理や異常の早期発見に努めている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時には医療機関へ積極的に情報を提供し、情報交換に努めている。 退院時にも、家族、病院関係者と話し合い、退院後の生活支援に結びつけている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人や家族の意向をふまえ、医療機関、家族の三者で、ホームとしての限界を示して話し合い、対応を取り決め書面を取り交わすようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	いつでも連絡が取れる主治医、併設施設の看護師、管理者、法人代表者も交え随時話し合いをしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	居宅支援事業所の担当者、その他関係機関、家族なども交え、主治医の意見も聞きながら情報交換をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	人生の先輩として尊敬の念を忘れず、一人ひとりの違いに応じた対応を心がけてはいるが、ときとして全体を当たり障りなく対応しているときがある。	○ 声掛け、呼び名など慣れすぎて乱雑、子供扱いにならない様注意している。特に排泄介助の対応には注意するようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	訴えに傾聴した上で生活歴などを踏まえ、その奥にあるものや真意について洞察し、対応するよう心がけている。	○ 返事で終わらないような声掛けを心がけている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベントの時など職員のペースにあわせないと仕事が回らない部分は確かにあるが、出来るだけ「その人」のペースにあわせて寄り添いながら、さりげなく介護するよう心がけている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	その日に着る服選びは、自分で出来る方は自分でしてもらい、そうでない方も好みに配慮して希望を聞きながら行っている。	○ 何点かの中から選んでもらう様に声かけしている。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る部分(もやしのヒゲ取りなど)については一緒にして頂いている。難しい方も、味を見て頂くことで、一緒に参加した気分を少しでも感じて頂いている。後片付けは自分たちで声を掛け合いながら、されるので危ない所をさりげなく手伝っている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	嗜好については家族より情報を頂いたり、日々の会話の中で把握し、極力制限がないよう楽しんで頂くようにしている。今のところ飲酒・喫煙される方はいない。その他おやつ等については、主治医の指示や管理栄養士のアドバイスがない限り、体調をみながら希望に添うようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄パターンを把握し頃合いをみて、さりげなく誘導・介助している。 また、はっきりした尿意になる前のサインにも心を配り、他者の目にも配慮した声かけを心がけている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	だいたい一日おきぐらいの入浴を目安として、季節や希望・健康状態にあわせて入浴して頂いている。 また、季節の折々に応じてゆず湯や菖蒲湯など、何も無いような時季には入浴剤も活用してアクセントをつけている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	昼間の活動に加え、冬場は就寝前に早めに暖房や電気毛布を入れ部屋と布団を暖めている。必要に応じて湯たんぽ等使用したり、寝付けない方は排泄を疑いチェック表に目を通した上で声をかけている。 季節に応じて温かい飲み物、冷たい飲み物。就寝前のゆったりした時間を心がけている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴をふまえて「できること」「できそうなこと」を見極めてして頂いている。 たとえば食事の後、さりげなく台ふきを目に付く所に置いておくなど自分たちで声をかけながら台ふきされる。	○	配膳の時お互いに準備されるようなときはできるだけ手を出さないように心がけている。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理できる方については、自分で管理して頂いている。 他の方についても、状態に応じて少額づつでも支払って頂いている。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地理的な要件もあり、バスハイク等のほかは、苑庭での散歩や日向ぼっこ、夕涼みにとどまっている。	○	少人数での買い物、食事会を計画を立て実行していきたい。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節に応じてバスハイクや新年の初詣等行っている。 また、気の合う少人数での外出も必要に応じて行っている。	○	家族の協力を得ながら、ふるさと訪問や墓参りなどもできればと思う。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は自由に利用されるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来客者には笑顔で出迎え、入居者のエピソード伝えるようにしている。 その時々の様子でリビングや居室、予備室に案内している。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	併設施設との合同で身体拘束廃止委員会を設置し、検討した内容を全スタッフに回覧している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や通用口は昼間は鍵をかけていない。離苑リスクのある方についてはドアの開閉音で察知するように心がけ、さりげなく同行し声をかけている。万一気づき漏れがあっても隣接するユニットや、併設の施設と連携し協力の下対応している。	○	入居者本人の思いをくみ取りスタッフと思いを共有していくことを、さらに深めたい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	対面式キッチンで調理中も目が届きやすい。また、持ち場を離れるときは他スタッフに声をかけ、常に誰かの目が届くようにしている。 夜間は、特にリスクのある方は定時の巡視以外にもコマめに巡視している。	○	バランスを崩され転倒の危険性のある方にセンサーマットを使用している。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	刃物は定位置に収納。 薬品類についても、それぞれに収納場所を決めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ヒヤリハットを活用し、都度都度当日のミーティングの中で検討している。 重大な事故については、さらに毎月のスタッフ会議の中や、緊急会議でも検討している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署に依頼して、すべての職員が受講できるよう数回に分けて救急救命講習を年一回行っている。 また、併施設との二月に一回の勉強会の中でも、NSを講師に勉強している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	独自の避難訓練を行っている。 緊急連絡網を整備していざというときは、非番の職員も出勤して避難誘導等に当たるよう取り決めている。 また、風水害が予測される場合は、当番を決め通常の夜勤者以外にも泊まり込み、備えている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	常に家族と連絡を取り、「そのひとらしさ」とリスクのバランスを考え対応を相談しながら対応している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日バイタルサインチェック、食事量チェック、排泄チェック、常に様子を観察し、いつもと違う様子を見つけたときは皆で情報を共有しながら必要に応じて医療機関に連絡を取っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書をファイルして、夜勤帯などにもを通すようにしている。また、疑問点があれば看護婦、主治医に確認している。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	できるだけ下剤を使用せずすむよう、食事に繊維の多いものを取り入れ、冷たい牛乳、特に排便がない翌日の朝一に、きな粉牛乳を飲んでもらうようにしている。	○	朝一に牛乳をのんでもらったり繊維質の食品をとるようになって便秘がかなり改善されている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	酸化水やお茶を使用してもらうがいてもらっている。また、自分でできない方はレベルに応じて介助している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の管理栄養士がたてた献立をもとに、季節の食材や菜園で採れた食材、入居者の好みに応じてアレンジしている。 摂取量はチェック表を作成している。また、体重も定期的に測定している。	○	毎食時、おやつ時に水分は確実に摂取している。また就寝前 夜間にも取るようにしている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	対策マニュアルを作成し実行している。 インフルエンザについては家族の理解を得て、スタッフ共々予防接種をしている。 また、感染が疑われるような嘔吐や下痢等が発生したときに備えて、パニックにならないよう大きめのビニール袋、使い捨ての手袋等を処理セットとして用意している。	○	開設当時から消毒殺菌のため、自亜塩酸ナトリウム系の電解酸性水を使用している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	上記マニュアルにより、手洗いとうがいを徹底し、食材は賞味期限・消費期限を常に確認している。 調理器具は一日の業務終了時に消毒している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	入り口の門扉は昼間は開放している。 玄関前や苑庭には季節の花を植え、ベンチや椅子を置いている。 季候のいい時季には、苑庭や玄関先で日光浴、夕涼みをしながらか客の方などに声をかけている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンと一体となったリビングで、食事の用意をしている気配（音や匂い等）を感じながら過ごしてもらっている。 リビングから一望の菜園や、その向こうの大自然を見ながら、季節感を味わってもらっていると思う。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった方同士で話がしやすいよう、廊下にベンチをおいている。また、多目的に使える部屋があり、必要に応じて利用してもらっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なじみの品の持ち込みは少ないが、ご家族の写真や、本人の好きな花等を飾り「その人の場所」づくりにつとめている	○	家族と相談して外出ついでに立ち寄る機会を作って生きたいと思っている。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	24時間換気システムのみならず、起床時、掃除の際等適宜行っている 空調については気候や、体感温度に配慮し入居者の様子を見ながら適宜行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下にや浴室、トイレには手すりを設置し、廊下の途中にベンチをおき適宜休憩できるよう配慮している。 浴室も手摺り以外は、ごくふつうの家庭で使われるものを使用し、できるだけ「ホーム」を意識せずむような造りとなっている。		現状を維持できるように日常生活の中でのさりげない訓練をできれば、と思っている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室やトイレにはわかりやすく、低い視線からでも見やすいように掲示している。 迷われるときには、他者の視線にも配慮しながらさりげなく声をかけて誘導している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外の風が気持ちいい季節には、苑庭で外気浴したり散歩できるように整備している。 また、リビングから一望できる菜園があり、入居者の方と一緒に作業したり、実際に参加されない方も室内やテラスから見学したり、声をかけあって知恵を借りたりして雰囲気だけでも楽しんでもらっている。		現状が維持できるよう継続したい。

V. サービスの成果に関する項目		
項 目	最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいの <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいの <input type="radio"/> ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="radio"/> ①毎日ある <input type="radio"/> ②数日に1回程度ある <input type="radio"/> ③たまにある <input type="radio"/> ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> ③利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> ②家族の2/3くらいと <input type="radio"/> ③家族の1/3くらいと <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/> ①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/> ②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/> ③たまに
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input checked="" type="checkbox"/> ①大いに増えている
		<input type="checkbox"/> ②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/> ③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/> ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/> ②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/> ②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/> ①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/> ②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/> ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

恵まれた自然環境、整備された苑庭、広々とした菜園の中で四季を感じ顔なじみの地域の方々に囲まれてゆったりと生活ができる。医療面においても母体法人の勉強会が定期的に行われ異常時の対応、相談ができる体制が充実している。又、地域の医療機関との連携を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している。年間の行事を通じて入所者と共に楽しみ、喜びを多く感じて頂いている。地域の小中学校、各種団体との交流会も盛んで地域に密着した暮らしとなっている。職員は手を出しすぎないように、意思決定の場面を考え、入所者中心の生活を心がけている。